

Course number		G-LAS12 80012 SJ13					
Course title (and course title in English)		イノベーションと情報 Innovation and Information		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Management Program-Specific Professor,MAEGAWA YOSHIKAZU	
Group		Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)		Statistics, Informatics and Data Science	
Language of instruction		Japanese		Old group		Number of credits 2	
Number of weekly time blocks		1	Class style		Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters 2025・First semester	
Days and periods		Thu.5		Target year		Graduate students	Eligible students For all majors
(Students of Graduate School of Informatics, Graduate School of Management cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
<p>研究や技術開発をを含むイノベーションに関する理論を、情報活用につながるよう体系的に概観する。したがって受講者は文系・理系を問わず、また製造業志望・非製造業志望も問わない。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】</p> <p>広い視野と新しい学問領域を創造する能力（俯瞰力と独創力）をもつ大学院生を養成する授業科目である。</p> <p>経済学や経営学（経営戦略、経営組織、マーケティングなど）の基礎知識があれば望ましいが、そうでない場合も履修に支障を来すことはない。</p>							
[Course objectives]							
<p>主として企業で行われるイノベーションを、経営学のコンテキストで整理し、体系化したものとして理解する。</p> <p>履修生は、技術系であろうと非技術系であろうと、また製造業志望であろうと非製造業志望であろうと、経営学の基本的な概念や用語についての理解を得る。さらには、履修生それぞれにとってのイノベーションや価値創造の背景や論理として、深い理解を得ることをより高い目標とする。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>各回のテーマやトピックスは、イノベーションや価値創造の背景や論理が理解できるよう、また、経営学の諸理論と技術開発との関連がよく理解できるよう選択してある。たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none">・中央研究所の意義、・「研究」・「開発」分類、・製品アーキテクチャ論、・マーケティングと技術開発、・ナレッジマネジメントと技術開発、・戦略論と技術開発、・経営組織と技術開発、・日本型経営と日本人論、・技術者の倫理、 <p>などなど。</p> <p>受講者には、2回目以降、毎回、配布資料を読んで授業にのぞみ、積極的に発言することが期待される。</p>							
イントロダクション (第1回)							
Continue to イノベーションと情報(2)							

イノベーションと情報(2)

- ・イノベーションとは (第2回)
- ・『科学革命の構造』 (第2回)
- ・『科学的発見の論理』 (第2回)
- 中央研究所の成立と今後 (第3回)
- ・『中央研究所の時代の終焉』 (第3回)
- ・コーポレートR&DとディビジョンR&D (第3回)
- ・OECDによる定義 (第3回)
- ・セレンディピティー (第3回)
- ・リニアモデルと連鎖モデル (第3回)
- 「オープンイノベーション」 (第4回)
- ・オープンイノベーションとクローズドイノベーション (第4回)
- 「パズル理論」 (第5回)
- ・技術者と事務系社員の技術観の相違 (第5回)
- ・技術への投資の意思決定の実際 (第5回)
- 「イノベーションのジレンマ」 (第6回)
- ・『イノベーションのジレンマ：技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』 (第6回)
- マーケティングと技術開発 (第7回)
- ・「マーケティング近視眼」 (第7回)
- ・STP (Strategy/Target/Positioning) マーケティング (第7回)
- ナレッジマネジメントと技術開発 (第8回)
- ・知の伝達の成否・コンカレントエンジニアリング (第8回)
- 中間まとめと演習 (第9回)
- 経営戦略論と情報応用 (第10回)
- ・経営戦略とは (第10回)
- ・合理性、非合理性、愚直、 (第10回)
- ・技術者の評価とモチベーション、デュアルラダー (第10回)
- 経営組織と技術開発 (第11回)
- ・技術人材マネジメント (第11回)
- ・技術者評価とモチベーション (第11回)
- ・デュアルラダー (第11回)
- 経営組織と日本型経営 (第12回)
- ・「組織能力と製品アーキテクチャ」 (第12回)
- ・技術担当者のメンタリティ (第12回)
- ・西洋との対比 (第12回)
- デジタル技術とテクノヘゲモニー (第13回)
- ・『テクノヘゲモニー - 国は技術で興り、滅びる』 (第13回)
- まとめ (技術者の倫理観 / Q&A) (第14回)
- ・科学における不正行為 (第14回)
- ・Q&A (第14回)

[Course requirements]

特になし。ただし、経営学（経営戦略、経営組織、マーケティングなど）の基礎的な知識があれば望ましい。

[Evaluation methods and policy]

下記の順に考慮して決定する予定。

ただし、授業の2/3以上に出席しなければ、単位付与の対象外となる。

前半終りの演習（小テスト形式） 30%程度

期末レポート 30%程度

授業への貢献（議論への積極的参加・発言） 40%程度

[Textbooks]

前川佳一 『パズル理論』（白桃書房）ISBN:978-4561266136

その他授業で用いるものは、適宜配布する。

Continue to イノベーションと情報(3)

イノベーションと情報(3)

下記「参考文献」参照。

[References, etc.]

(References, etc.)

一橋大学イノベーション研究センター 『イノベーション・マネジメント入門』（日本経済新聞社）
ISBN:978-4532132231

クレイトン・クリステンセン 『イノベーションのジレンマ: 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』（
翔泳社）ISBN:978-4798100234

[Study outside of class (preparation and review)]

2週目以降、次の週までの課題として文献や記事などを配布し、かつそれに伴う考察テーマを示す。
受講者は課題を熟読し、テーマに沿って自分の考えを整理して授業に臨むこと。この姿勢がなければ、学習効果は半減する。

[Other information (office hours, etc.)]

開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールでの
アポイントを経ることとする。

[Essential courses]